

第3回 次世代運行管理・支援システムについての検討会

安全運行サポーター協議会 取り組みのご紹介

2015年8月7日

安全運行サポーター協議会

安全運行サポーター協議会について

目的

- 健康・過労起因事故の効果的な防止
- プロドライバーの労働生活向上

活動内容

- 研究活動（運行・労務・健康管理の一元化）
- 環境整備（ガイドライン策定・現場の人材育成・インフラ整備等）
- 政策提言



国土交通省

- ・ 中小零細輸送事業者における安全運行支援の強化
- ・ 運行・労務・健康管理の一元プラットフォーム化
- ・ 次世代車載器（スマタコ）の企画（標準化など）



会員の状況

● 第一種法人会員：16会員

一般社団法人健康マネジメント協会
損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント株式会社
株式会社タニタ
デルタ工業株式会社
株式会社デンソー
東京海上日動リスクコンサルティング株式会社
株式会社トランストロン
パラマウントベッド株式会社
富士通株式会社
富士通コミュニケーションサービス株式会社
株式会社プロデキューブ
特定非営利活動法人ヘルスケアネットワーク
株式会社堀場製作所
株式会社ミレニア
矢崎エナジーシステム株式会社
公益財団法人労働科学研究所

合計28会員が会員として活動中

● 第二種法人会員：8会員

有限会社石原運輸
鴻池運輸株式会社
株式会社三榮商會
公益社団法人日本バス協会
株式会社ハマキョウレックス
富士急行観光株式会社
株式会社ユタカ産業
吉川自動車運送株式会社

● 個人会員：4会員

兵藤哲朗（東京海洋大学 教授）
堀野定雄（神奈川大学 工学研究所 客員教授）
本田 聡（弁護士）
廣田浩一（弁理士）

※2015年8月4日時点会員、各項50音順掲載

安全運行サポーター協議会について

ワンストップ化WG

輸送事業者・ドライバーの皆様の健康・労務管理面での困りごとにワンストップでおこたえすることを目的に、あたまの健康や眠りの健康をはじめ、健康管理面での総合チェック&サポートを行うワンストップサービスを開発中。

メンバー : (一社)健康マネジメント協会、(株)タニタ、パラマウントベッド(株)、富士通(株)、富士通コミュニケーションサービス(株)、(株)プロデキューブ、(NPO)ヘルスケアネットワーク、(株)ミレニア、(公財)労働科学研究所

(五十音順)

標準化WG

運行・労務・健康管理を一元的にとらえ、様々な機器の連携により、全国の輸送事業者様のデータを集合知として活用する予防型の高度な安全運行社会を目指した取り組みを推進中。

メンバー : 運行支援系機器・サービス…(株)デンソー、(株)トランストロン、(株)堀場製作所、矢崎エナジーシステム(株)
健康系機器・サービス…(株)タニタ、デルタ工業(株)、パラマウントベッド(株)、富士通(株)
コンサル…損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント(株)

(五十音順)

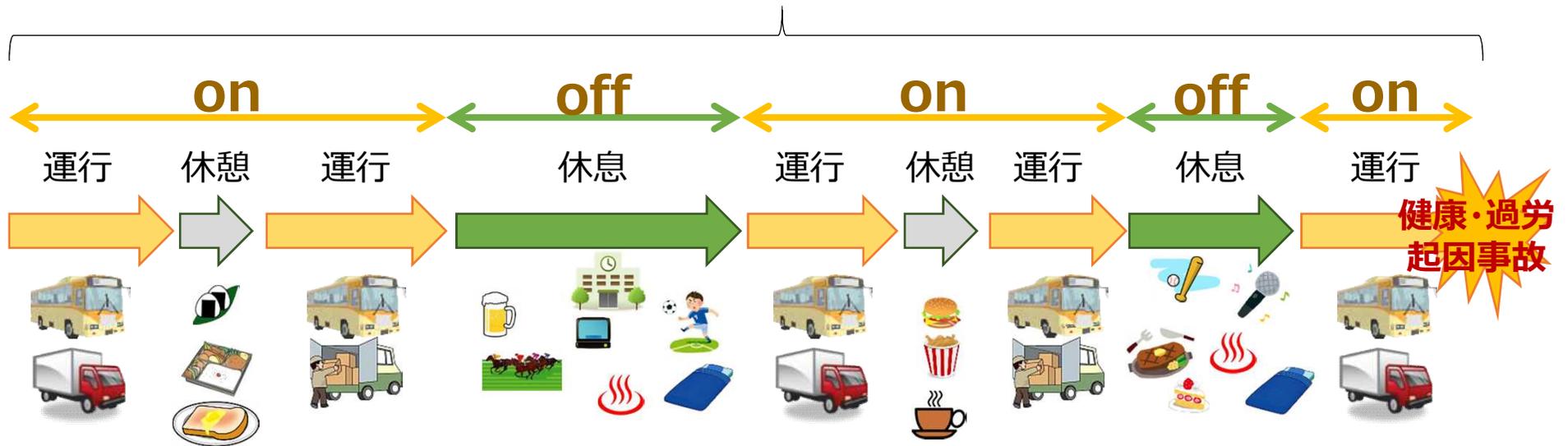
次世代運送事業モデル研究WG (企画検討中)

なぜ協議会なのか

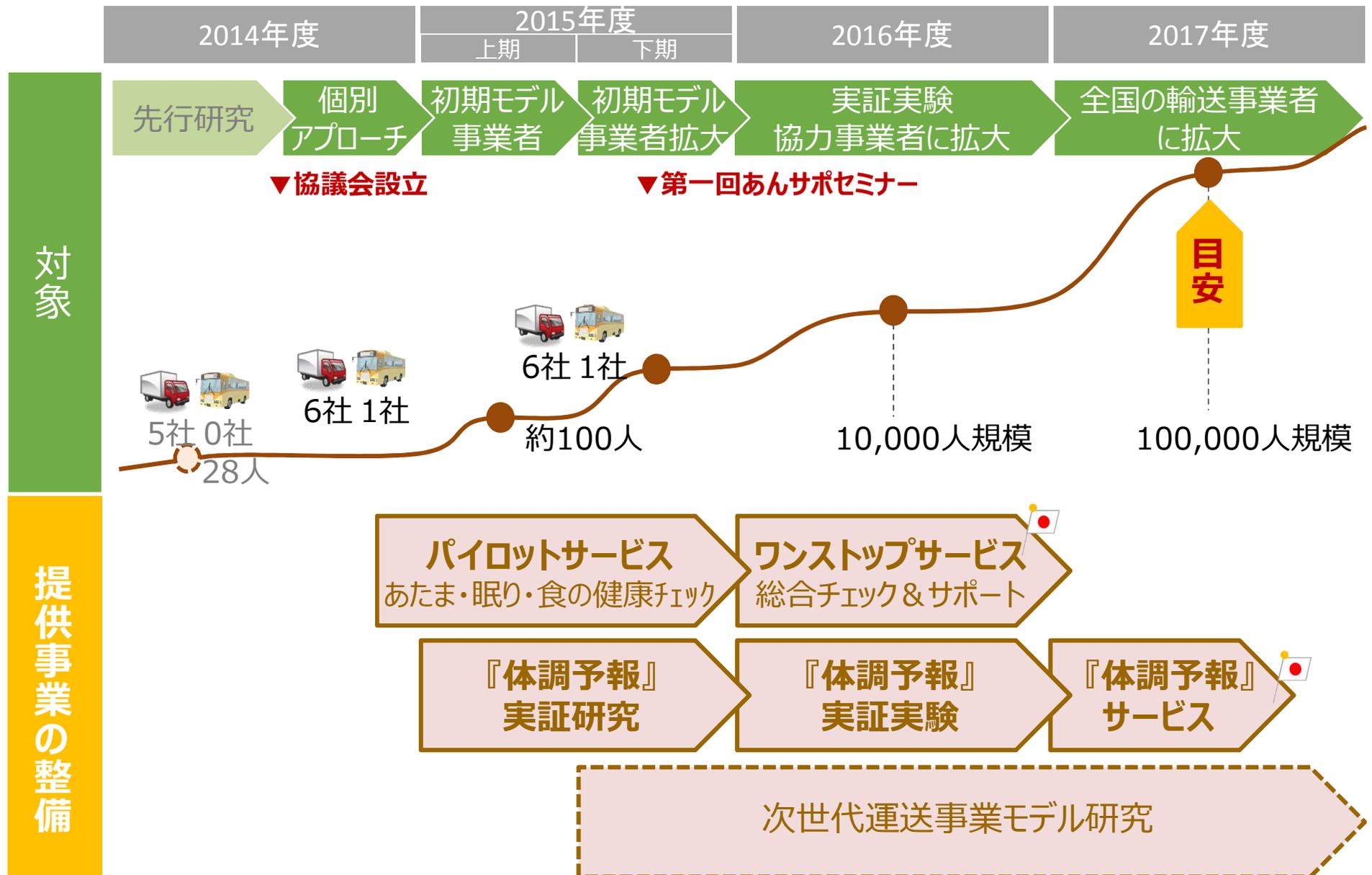
単一企業では解決不能な問題に「複合事業体」で取り組む



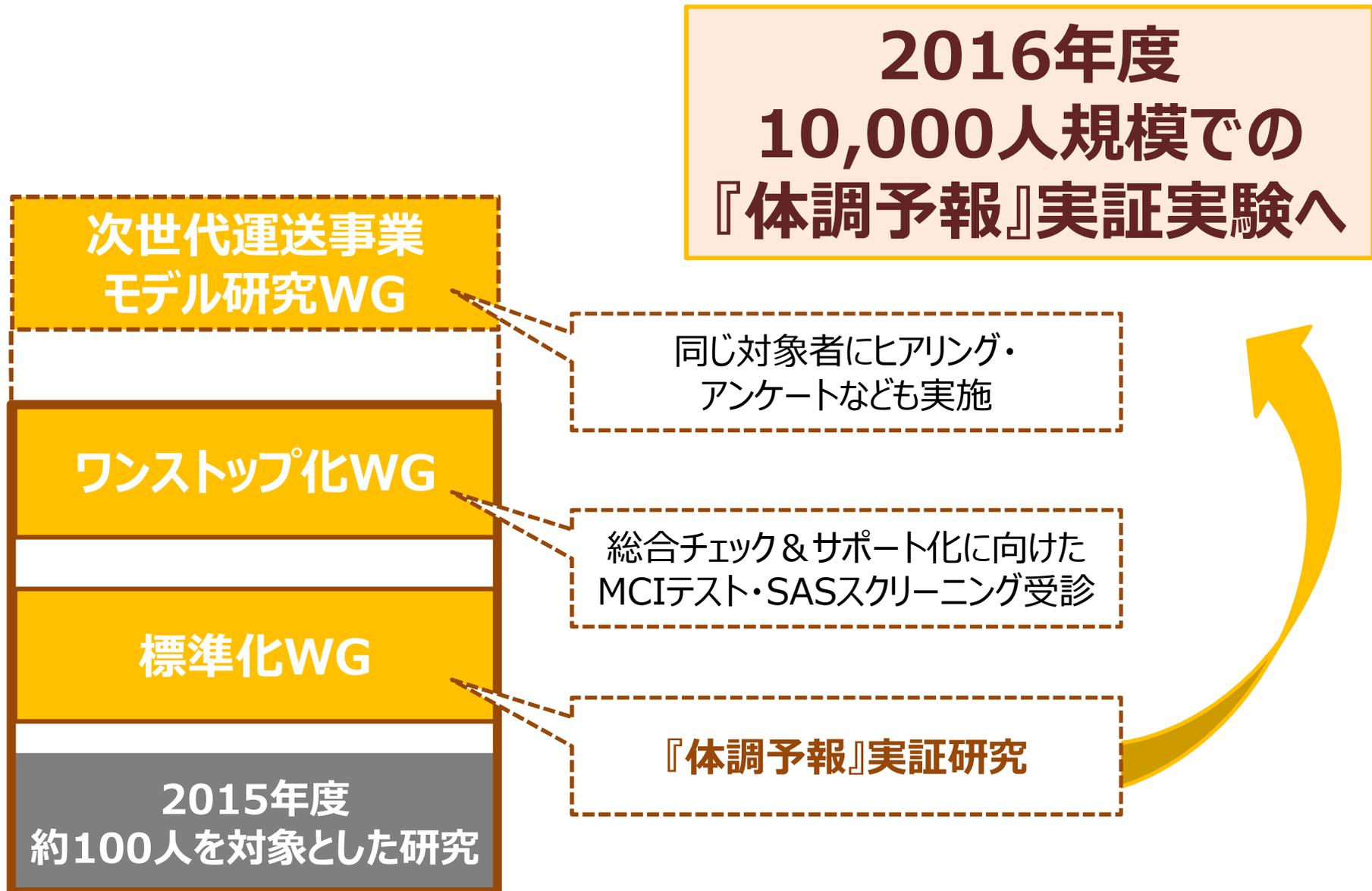
原因は on / off のいたる所に遍在



マイルストーン



WG横断で実証研究に着手



標準化WG 『体調予報』

「疲労度」

×

「健康度」

×

「回復度」

「判断能力の低下」
の度合い

例：運転挙動、労務状況、点呼時状態、等

「疾病に対するリスク」
の度合い

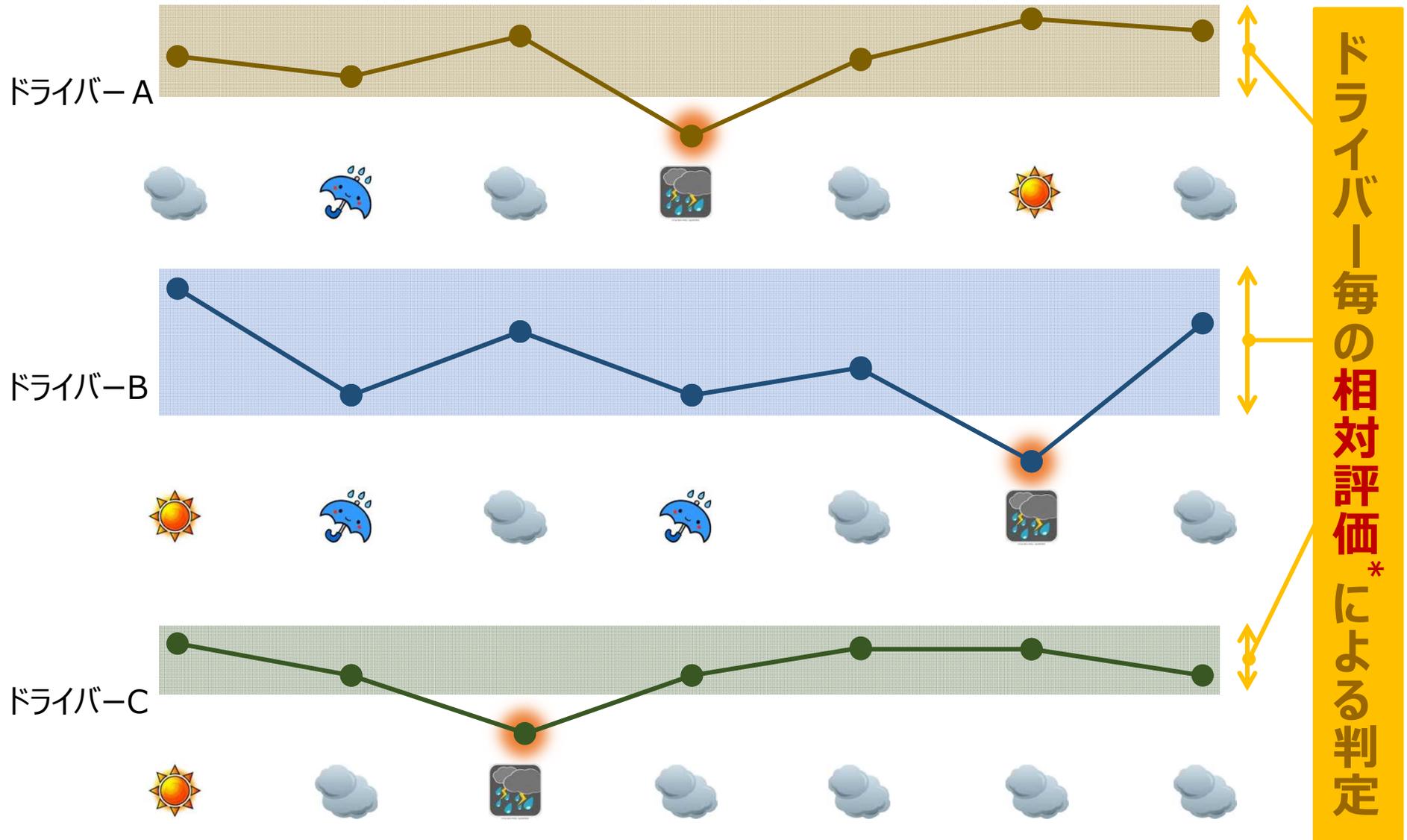
例：健康診断結果、生活習慣、等

「良質な食事や睡眠等
による回復」の度合い

例：食事状況、睡眠状況、運動状況、等



『体調予報』イメージ



*年齢・性別・業態／勤務形態・健診結果・日々の測定データの推移や傾向により判定

事業者様のニーズ（ヒアリング結果まとめ）

トラック(深夜便・長距離)

○期待の声

- 終業点呼時の体調予報を配車に活用したい
- 乗務員との日々のコミュニケーションツールとして活用できる
- 運行中の体調変化への対応(遠隔点呼含む)にも活用したい

○活用に向けた課題

- 忙しい出発時でも簡単に測れるものが必要
- コスト負担が過大にならないようにすべき
- 日常への介入は最初は壁があるかもしれないが、乗務員を守る目的を十分に説明すれば理解は得られるはず(ドライバーの健康＝経営)

バス(貸切・高速乗合)

○期待の声

- 終業点呼時の体調予報を配車に活用したい
- 体調をデジタルに数値化してほしい(アルコール検知器のように)
- 乗務員確保・定着率向上に向け、体調予報に期待(安全管理・健康管理をきちんとしないと「人」が集まらない)

○活用に向けた課題

- 既に血圧や体温を記録管理しているが、効果的な活用には至っていない
- 点呼時に前日の睡眠時間を聞いているが、うまく使えていない
- 家庭(睡眠・食事)に入り込むのは簡単ではない(家族理解のため意識を高める環境作りが重要)

『体調予報』の想定利用シーン



2015年度実証研究データ測定概要

4チームに分かれ、ドライバー100人・3ヵ月間のデータを測定（チームあたり25人目標）

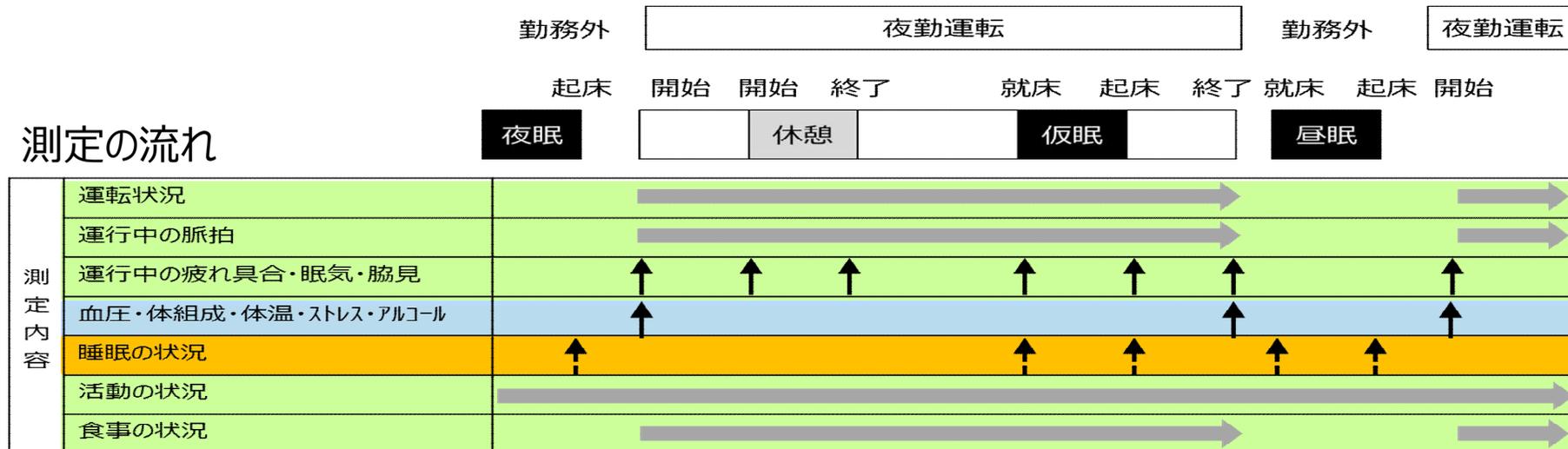


※1 全ドライバーを対象

※2 営業所単位で機器を割り当て、全ドライバーを対象

※3 一部ドライバーを対象(全体の約3割程度の機器を準備)

測定の流れ

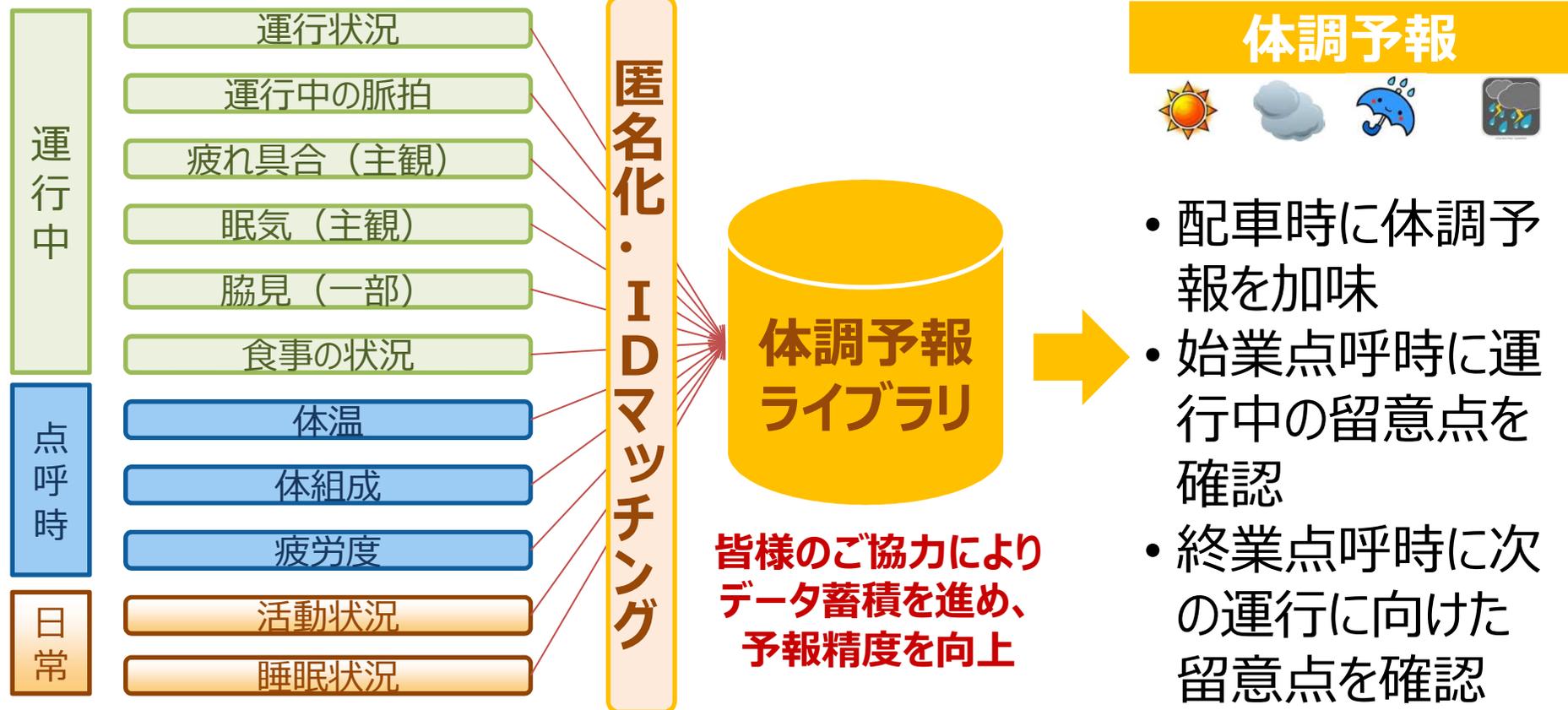


『体調予報』によるデータ活用

データ収集

データ蓄積・分析

データ活用



標準化WGの取り組み方針

